

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800110
法人名	社会福祉法人 大川医仁会
事業所名	グループホーム あおぎり荘
所在地	福岡県久留米市城島町芦塚804番地の1 (電話) 0942-62-2150

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】 (平成19年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 18人, 非常勤 2人, 常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年12月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	10 名		
要介護5	2 名	要支援2	3 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村医院 若津内科・皮膚医院 松岡病院 木下歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな田園地帯の一角に広い敷地を有し、木造平屋建ての事業所にデイサービスセンターが併設されている。事業所の窓からは背振山を直近に眺めることができ、馴染みのある風景は、利用者の安心感につながっている。地域とは、小学校、保育園、地域の婦人会、周辺住民と交流を通じて積極的な関わりを持ち、地域の一員としての基盤を構築している。事業所独自の取り組みでは、歯科衛生士・看護師を配置して、より専門的な健康管理・口腔ケアに努め、毎月ボランティア講師による音楽療法・回想療法も取り組んでいる。また、生ごみコンポストに取り組み、家庭菜園の肥料を作って、エコホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、ホーム機能の地域還元や行政との関わり等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価及び外部評価の意義を理解し、項目毎に協議して、管理者及び計画作成担当者でまとめ上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者状況や事業内容、外部評価への取り組み状況等について報告している。委員からの意見を聴取し、避難訓練の実施を強化する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	職員は家族来訪時に声かけを行い、積極的に意見や要望等を聴取するよう努めている。家族からの要望で、リビング掲示板に職員の名前入りの顔写真を掲示する等、それらを運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、敬老会、校区民大会、地域清掃活動に参加している。近隣の小学校・保育園との交流があり、事業所の秋祭りには、老人会、婦人会がボランティアとして参加する等、地元の人々と交流することに努めている。また、近隣の大学や専門学校から研修生の受け入れを、積極的に行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に理念に触れ、会議では具体的な理念のケアについて意見の統一を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会、校区民大会、地域清掃活動に参加している。近隣の小学校・保育園との交流があり、事業所の秋祭りには、老人会、婦人会がボランティアとして参加する等、地元の人々と交流することに努めている。また、近隣の大学や専門学校から研修生の受入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価及び外部評価の意義を理解し、項目毎に協議して、管理者及び計画作成担当者でまとめ上げている。前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、ホーム機能の地域還元や行政との関わり等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者状況や事業内容、外部評価への取り組み状況等について報告している。委員からの意見を聴取し、避難訓練の実施を強化する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、行政担当者に事業所便りを持参し、事業所の近況報告をしている。現在取り組んでいる音楽療法の見学に来てもらったり、行政主催の研修会に積極的に参加して関わりを深める等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部職員が制度に関する外部研修を受講し、他の職員へ伝達研修をしている。事業所内にテキスト・パンフレット・研修記録・報告書を整備している。また、制度に関して、利用者・家族へ、入居時に説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、事業所便りにて近況や行事予定を知らせ、写真も併せて家族等へ郵送している。緊急時には、電話連絡をしている。金銭管理については、月1回、家族に出納帳を明示し、また領収書の原本を渡して報告し、署名・押印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族来訪時に声かけを行い、積極的に意見や要望等を聴取するよう努めている。家族からの要望で、リビング掲示板に職員の名前入りの顔写真を掲示する等、それらを運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるように努力しているが、やむを得ず職員が代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ取り組みとして、馴染みの職員が積極的にコミュニケーションをとる等して対応している。	○	引き継ぎの期間や方法について、考慮してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。職員の趣味や特技を活かして、社会参加や自己実現の権利が保証されるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>事業所に人権テキスト・パンフレットを整備し、12月の人権啓発週間に勉強会を開催し、全職員の理解を深めている。また、参加出来なかった職員には伝達研修している。研修記録もある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員に日常的に学ぶ事を推進し、外部研修は全職員が均一的に学べるよう配慮している。救急講習会、調理講習会等、参加者が内部・外部研修共に参加し、随時報告・伝達研修を行っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国組織の同業者ネットワークに加入している。筑後地区老人福祉施設協会の同業者との勉強会を開催したり、近隣の事業所と交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学を行い、すでに入居している利用者・家族からの意見を聴く機会を設けている。やむを得ず病院から即利用になった場合は、職員が病院に見舞いながら顔馴染みになり、安心感を持ってもらうよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑作業等を共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。また、職員に利用者が労いの言葉をかける場面がある等、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いや意向の把握に努めている。また、職員は利用者の言動や表情から、真意をそれとなく確認している。意思疎通が困難な利用者には、生活歴や家族から情報を得るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制だが、全職員の意見やアイデア及び本人・家族の希望や意向、思いも反映した、本人本位の介護計画を作成している。本人・家族から、介護計画了承の署名・押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて本人・家族等、関係者と話し合い、カンファレンスを行って、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院時には管理者・職員が一日おきに見舞いに行き、本人・家族・医療関係者と連携を図り、早期退院に向けた支援をしている。通院や外泊時には家族の依頼で職員が送迎する等、必要に応じて柔軟に個別支援をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での受診を支援している。総ての医師と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針がある。入居時や折に触れて、事業所が出来る最大限の支援方法を、家族等に説明している。利用者・家族の意向を大切にし、本人・家族・かかりつけ医・職員等、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮し、さり気ない排尿誘導や言葉かけ・対応をし、目立たないよう心がけている。外部・内部研修や会議をし、全職員の意識化を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理や片付けをし、同じものを同じテーブルで食べ、畑で採取した野菜が話題に上がる等、楽しい雰囲気である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、利用者の希望する時間や長さ等、体調に合わせて入浴を支援している。入浴拒否する利用者には、人や時間を代えて利用者の気分転換を試み、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力を活かして、畑仕事・裁縫・大正琴・書道・絵・舞踊・カラオケ等、本人の役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調等を考慮しながら、ほぼ毎日の散歩、週3回の買い物、2ヶ月に1回の季節のドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、センサーに頼らず、見守りや付き添いを行っている。地区長・民生委員児童委員を通じて、近隣へ見守りや声かけをお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、職員は周知している。年2回、消防署の協力を得て訓練を実施している。また、年4回、事業所独自で夜間想定した訓練を実施し、職員は外部の救急救命訓練の講習を交替で受けている。訓練時には、地区長・民生委員が参加し、地域住民にも参加を呼びかけている。非常用食料・備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。職員が利用者の嗜好を考慮し、献立を作成している。また、定期的にかかりつけ医や栄養士に、栄養バランスやカロリー等の専門的なアドバイスやチェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間に利用者作成の書や絵等を展示し、和室やソファを設置する等して、家庭的雰囲気配慮している。職員の声やテレビの音量は適切で、不快と感じる光はない。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者一人ひとりの馴染みの物を持ち込んでいる。家族写真、小物、縫いぐるみ等、その人らしい工夫がある。また、利用者自筆の表札を掛ける等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。